

京葉ガスの「研修センター」

JFEシビルが建設、竣工

JFEシビル(社長 棟には、同社のシステム建築「メタルビル」
・藤井善英氏)が設計を適用。独自の杭と柱
葉ガスの「緊急保安研の一体化工法「いちい
修センター」(千葉県ち基礎工法」を採用す
市川市)がこのほど竣工すること、コスト削減
工した。研修棟とエマと工期短縮を実現し
ーシエンシースクールた。



竣工した施設のパース図

本施設は、京葉ガスの緊急保安業務従事者を育成するための設計監理・元請けは京葉都市開発。研修棟、エマ-シエンシースクール、屋外実習棟の3棟で構成さ

れ、研修棟は鉄骨造5階建て、延べ床面積2100平方メートル。教室のほか、漏洩修理ヒット、危険体感施設、ガバナ実習室、事故事例研究室、事務室などで構成される。

またエマ-シエンシースクール棟は鉄骨造3階建て、延べ床面積660平方メートルで集合住宅・店舗におけるガス漏洩を想定した初動措置訓練施設となっている。屋外実習棟は鉄骨造平屋建てで延べ床面積は380平方メートル。道路でのガス漏洩現場を想定し、調査・掘削・修理の技術や技能の習得を目的とした施設だ。

「いちいち基礎工法」は基礎杭と柱を一体化させ、基礎梁を省略する工法。従来工法に比べ基礎・鉄骨工事費を大幅に低減できるほか、掘削土量の抑制や工期短縮を実現する。同社のシステム建築事業で短工期の切り札として強力な武器となっており、適用案件が急激に増加している。

同社では本工法の適用によって他社との差別化を図り、さらなる受注拡大を進めていく方針。